

「緊張したけど楽しかった」

バドミントン同好会、1年生が初の大会参加



これで決める!! 唯一の女子部員、西丸知那さん(1A)

本校でバドミントン同好会が発足して初めて参加するヨネックス杯全十勝高校夏季バドミントン大会が7月24日(木)・25日(金)の2日間よつ葉アリーナで行われ、1年生のみで臨んだ。結果は初戦敗退もしくは2回戦敗退となった。

【男子シングルス】

豊田健成選手(1A)はシード選手として出場、清水高校の佐藤選手と対戦したが0・2で1回戦敗退となった。

【男子ダブルス】

寺田選手に0・2で負け3回戦進出を逃した。豊田・山崎ペアが帯広柏葉高校の西川・川田ペアとの対戦し、0・2で初戦敗退となった。

【女子シングルス】

山崎雅斗選手(1B)は芽室高校の安達選手に2・1で勝利し2回戦に進出したが、清水高校の伊達選手と

西丸知那選手(1A)は清水高校の伊達選手と

蒼一 蒼一 蒼一

発行者
上士幌高等学校
新聞局
編集長
高橋 ゆい
第265号
令和2年8月18日

対戦したが0・2で敗れ初戦敗退となった。今回の大会について出場した3人に感想と今後の目標について聞いた。豊田選手「高校初めての試合でも緊張した。ダブルスもシングルスも会場の雰囲気にも飲まれてしまい、自分らしいプレーができなかったのが悔しい。今回の大会の結果に満足していないから次の大会に向けて練習を頑張りたい」

山崎選手「初めての試合だったけど全然緊張しなかった。むしろ楽しかった。体をもっと温めていたらもっと楽に勝てたと思う。これからはさらに強い人と当たると思うから、スキルを磨いて対応できるようにしていきたい」と答えてくれた。

西丸選手「初めての大会で滅茶苦茶緊張したけど楽しかった。実力と練習が足りないと感じた。今回のミスは練習で改善して次の大会では負けなようにしたい」

最後に今回の大会について顧問の松村彪矢先生は「初めての大会だったけどみんな実力が出せていたと思う。ただミスショットが多く、取れる点数を落とすようになってしまったのがもったいないと感じた。これからは、1年生が中心になって活動するから向上心をもって練習していき、ミスショットを減らすなど次の大会に備えていきたい。1年生のこれからの成長が楽しみ」と話してくれた。

(渡邊 このみ)

「格上でも諦めず戦えた」

同級生との約束果たせず残念



普段は見れない真剣な表情をする七海さん

合になるというところで佐藤七海選手(3A)は「無いと思っていただけに大会があったので後悔なく終わった」と笑顔で答えてくれた。試合では「緊張せずに、相手が格上でも最後まで諦めずに戦えた」

「野々村がベスト16で最後の試合は惜しい負け方だった」「中西は粘り強い試合をしていて、ぶっかっこうではあったが頑張っていた」「七海の試合は距離が遠くてそんなに見れなかったが強い相手でも頑張っていた」と部員の活躍をしっかりと見届けていた。

卓球部顧問の白戸先生は「全体通して悪い試合ではなかった」と切り出し、「団体戦は初戦、体が全然動いてなかった。2回戦目では体が動き、勝って良かった。結果は

3者リーグで3位だったが、初戦で負けた相手は2戦目で勝った相手に負けたらしく、「もしかしたらリーグ戦では1位になれたかもしれない」という。一方個人戦では「ここまで短くなるとは思わず正直「こんな短くて大丈夫かな?皆に馬鹿にされないかな?」と不安に思っていました▼実際そんな事は無く、「思い切ったね」「似合ってるよ」と先生や友達が言ってくれたので安心しました▼その三、給食で夏野菜カレーの時、自分は白米だけ食べました。ルーの具がナスとイカとエビという嫌いなものばかりだったからです▼読んでくれた人、どう思いますか。覚えなくても結構です。

(加藤 駿)

箸休め

今回も普段自分が過ごしている中で「これっておかしいか?」第4弾です▼その一、自分は散々「魚貝類を食べるのは嫌だ」と言ってきましたが、釣りは大好きで、小学生の時は、よく芽室のニジマス園に行っていました。いつか大きな川でバスやイトウ、海ならイカやマグロなどを釣ってみたいですね▼魚を捌いてみたいとも思います。もし機会があれば是非教わりたいです。食べたくは無いです。食べたくは無いです。進路に使う写真撮影のため部屋へ行った時、親に「短くしてもらいなさい」と言われましたが、まさかここまで短くなるとは思わず正直「こんな短くて大丈夫かな?皆に馬鹿にされないかな?」と不安に思っていました▼実際そんな事は無く、「思い切ったね」「似合ってるよ」と先生や友達が言ってくれたので安心しました▼その三、給食で夏野菜カレーの時、自分は白米だけ食べました。ルーの具がナスとイカとエビという嫌いなものばかりだったからです▼読んでくれた人、どう思いますか。覚えなくても結構です。

懐かしき「お昼の放送」

執行部の新たな試み始まる

7月17日から執行部による「お昼の放送」がスタートした。1回目は機材トラブルで聞こえなかったが、2回目はクイズで盛り上がった。

初回を担当した木村彩夏さん(3A)にこままでの経過を聞いた。

Qなぜこの放送をしようと考えたの？

A分散登校の時に静かな空間が少しでも柔らかくなるようにと考

えつき、顧問の北崎先生と上神田先生に相談した。

Q放送はどんな企画がありますか？

A頑張ってる人を紹介する。ゲストを呼んでいつもは聞けない話

を聞くのかな。

Q準備する上で苦労したことは何ですか？

Aフリートーク。練習しすぎると台本どおりに話してしまうが、練習しないとグダグダになるし。

Qこままでの感想は？

Aやる気満々だったが、機材トラブルがあったので聞えなかったのが悔しかった。でも2回目は無言になって止まることはなかった。教室でも今日は聞こえたようであった。

北崎先生と上神田先生にも感想を聞いた。「教壇に立つのとは違った雰囲気でもよつとドキドキした。1回目は機材トラブルがあったので同じ失敗を繰り返さないために上神田先生と協力して機材点検したので、2回目の方が上手くなっている」と思った(北崎下)



敬語が離れなかった佐藤七海さん(3A)奥は齊藤香暖さん(2B)

「初回の2人は緊張もあったと思うが練習した成果は出せていた。回数を重ねるごとに上

あなたに届ける「特別な1冊」

読書コーディネーター森さん着任



読書の面白さを学生達へ

生徒の憩いの場である図書室に来てはいる読書コーディネーターの森典子さんを、皆さんは知っていますか？この仕事は「本

と人をつなげる」のが役目で、小中学校の図書室を充実させるのがメインだ。具体的には新しい本に透明なフィルムを貼つ

たり、図書ボランティアの方達と協力をして本の読み聞かせをしたりしている。

森さんは元々新潟出身で、道都大学の美術学部を卒業した後、県内で芸術イベントの仕事をしてきたが「子どものころから読書をするのが好きで大人になっても本が好きだ」ということが変わらなかった「ことと「本に携わる仕事をしてみたい」と思っていたところ、上士幌町での募集を知り、応募して採用された。さらに小中学校に加えて高校からも声がかかり、「今まで高校生との関わりがなかったから実現できて嬉しい」と笑顔で言ってくれた。

森さんは毎週月曜日に来ているので、図書室に行ったらこの人はいない人は足を運んでみてはどうだろうか。(早坂 柚香)

上高の生徒は「男子も女子も関係なく元気に挨拶をしてくれて、活気があると思う」ので、これから「図書室を生徒がもっと使いやすくしていきたい。今ある古い本を処分し、先生と相談しながら魅力ある本を買っていききたい」として「読書の面白さを小中高生たちへ伝えて皆に特別な1冊に出会ってもらいたい」という。

先生の休日⑥



RPGが大好きです

第6回は3年B組の副担任であり、1年生の国語総合を担当してくれている坂口英樹先生だ。

普段の休日は5時半に目が覚めて、外ではランニング、家では筋トレをしたりテレビを見たりしているそうだ。また、家の庭ではサッカーの練習として入念にアツ

プをした後、リフティングをしたり、家の近くの山にボールを蹴り込んだりしているそう。ランニングは週に25km以上走るのが目標で、主に堤防に沿って自分合ったペースで走っているという。「ケガと向き合え、私はゲームをするのが好きなので「ゲームをしたりますか？」と聞くことが多い。

サッカーやランニングは息子さんと中学校まで一緒にしていたそうだが、今は別々に暮らしているので1人でしているそうだ。

今回の取材で、坂口先生の新しい一面を発見できて更に授業が楽しみなそうです。今回は相場先生を調査すると、「火花」「手紙屋」

(高橋 ゆい)